

熊本地震復興祈願

ふる郷

汗だす
ひとに
未来は
拓ける

5月28日

9:00 オープニング演奏 9:30 開会

ふる郷愛鏡祭

第32回

鏡支所、 鏡文化センター周辺

問合せ 「ふる郷愛鏡祭実行委員会」事務局
(鏡支所地域振興課内) ☎52-1111

主催 ふる郷愛鏡祭実行委員会と八代市

主なイベント内容

★かがみ食フェスティバル「鏡うまかもん大集合!!」

★参加型イベント

「畳投げ大会」「野点」

「魚のつかみ取り大会」「伝承遊び」

「いも掘り体験」

「ジョギングフェスティバル」など

★宇宙戦隊キュウレンジャーショー (観覧無料)

★郷土芸能披露

★歌謡ショー

★フリーマーケット・企業PRコーナー

★特産品展示販売

★特産品が当たる抽選会など



松浜軒／松井文庫の至宝

天才絵師・狩野探幽、12歳の作

「渡唐天神図」

江戸時代・慶長18年(1613)

八代市立博物館未来の森ミュージアムでは、江戸時代中期の画家

「円山応挙」を紹介する特別展を開催しています。最大の魅力は「写生」。例えば「牡丹孔雀図」(国重文)に描かれた孔雀は本物と見まがうほど。体温まで感じさせる羽毛、鱗のように硬い皮膚、姿ばかりか質感までもが見事に表現されているのです。

では、応挙以前の日本画壇はどのようなものだったのでしょうか。やまと絵と中国・宋元画の伝統を受け継ぎながら、安土・桃山時代から江戸時代を通して日本画壇を支配した絵師集団・狩野派歴代のなかでも特に天才とうたわれた探幽守信(1602〜74)は、「余白」を生かした瀟洒な画風を確立しました。以後、それは絵師の手下と



写真「渡唐天神図」(部分) 狩野探幽筆

なり、日本独自の美として賞賛されるに至ります。

実は、この探幽作品が八代の松井家に伝えられていることをご存知でしょうか。ここに紹介するのは探幽12歳の作、線の肥瘦や墨の濃淡を効果的に使ったという伝説にもとづくものです。

応挙と探幽、八代で天才絵師2人の作品を見比べるまたとないチャンスです。博物館へお越しの際は、ぜひ松浜軒・松井文庫へもお立ち寄りください。(博物館学芸員 石原 浩)

【展示案内】

会期 4月15日(土)〜6月4日(日)

午前9時〜午後5時

※入園は午後4時30分まで

会場 松浜軒

閉園日 毎週月曜日

(祝日の場合はその翌日)

観覧料 一般 500円

小中学生 250円

問合せ 松浜軒／松井文庫

☎330171